

第1学年美術科学習指導案

内容のまとめり：第1学年「作品や美術文化などの鑑賞」
〔B鑑賞〕(1)ア(7),〔共通事項〕(1)ア,イ

題材名 見て感じて鑑賞しよう！

学年 第1学年 31名

場所 体育館

指導者 安芸高田市立八千代中学校 中原 有紀

題材について

題材について

本題材は、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説美術編の第1学年の内容「B鑑賞」(1)ア(7)及び〔共通事項〕(1)ア,イを扱う。

本題材は、生徒が美術作品などから、感性や想像力を働かせて、そのよさや美しさを楽しみ味わいながら、鑑賞に親しみ、対話的な活動などにより、作品などに対する思いや考えを説明し合う中で、自分にはない新たな見方や感じ方に気づき、ものの見方や感じ方を広げることがねらいとして設定したものである。

本題材は、安芸高田市の所蔵作品である『もう一度の想い』（油彩F50号 2010年大上典男）を借り受け、実物を用いて鑑賞する。この作品は、子供の様子を哀愁漂う世界で表現している。生徒にとって年齢に近い人物が描かれているため、人物の表情やしぐさなどから想像力を働かせて作品に込められた心情やその作品によって何を表現したかったのかという意図などについて考えやすくなると考えられる。また、青色を基調とした作品であることから、生徒は、色彩がもたらす感情の効果にも着目しながら鑑賞することができる。

本題材の学習を通して、生徒は、作品などが表している内容や形、色彩、材料、表現方法などから、自分としての根拠をもち、作者の心情や表現の意図と工夫などを主体的に考えるなどして鑑賞の視点を豊かにし、ものの見方や感じ方を広げることができると期待される。

生徒について

本学級の生徒は、これまでに、「見て感じて、描く〔絵や彫刻など(表現)〕」、「色を学ぶ〔デザインや工芸など(表現)〕」について学習している。鑑賞の学習では、生徒の作品を互に見合う鑑賞活動や実物の作品を用いた鑑賞活動を行い、鑑賞への関心を高め、作品の見方や感じ方を広げてきた。

7月に実施した美術に関するアンケートでは、「美術の学習が楽しい。」と96%の生徒が回答しており、ほとんどの生徒が美術の学習に対して、肯定的な気持ちで臨んでいることが窺える。さらに、「美術作品を鑑賞することが好き」と答えた生徒は、81%であった。これらのことから、生徒の多くは、鑑賞活動を前向きに捉えていることが分かった。

しかし、同アンケートの鑑賞時に何に困っているかを問う項目では、「どこに注目したらよいのか分からない。」や「何が良くて何が良くないのか分からない。」などが挙げられた。このことから、生徒は、形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果、また、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉える力が不十分であるため、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えることができていないことが分かった。

指導に当たって

指導においては、作者の心情や表現の意図と工夫などについて、生徒が自分の感じ取ったことや気付いたこと、考えたことなどをお互いに説明し合う中で、自分にはない多様な見方や感じ方があることに気付かせることにより、一人では気付かなかった新たな視点で作品を捉えられるようにする。そのため、導入では、対話による鑑賞、展開では、ワークシートを用いてグループで作品について話し合う活動を設定した。

生徒が作品の形や色彩など造形的な特徴から全体のイメージを捉えやすくするために、実物の作品を用いて鑑賞活動を行うことにより、作品のもつよさや美しさについて実感を伴いながら捉えることができるようにする。

導入では、生徒が自分の感覚で素直に感じ取ったことを言葉で表すため、生徒の第一印象についての発言を基に、造形的な視点を活用しながら鑑賞するように促す。また、展開では、グループで作品を鑑賞し、作者はなぜこのような表現をしたのか、どのようなことを表現したかったのかなどについてワークシートを活用し、考えたり話し合ったりすることにより、見方や感じ方を広げていくようにする。

題材の目標と評価規準

題材の目標

- (1) 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、作品のよさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解する。
- (2) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を広げる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、作品のよさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解している。	鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を広げている。	態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

指導と評価の計画

(全1時間)

●学習のねらい・学習活動	知・技	思	態	評価方法・留意点等
1 鑑賞（1時間） ● 造形的な視点に着目し、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えたり、話し合ったりするなどして作品の見方や感じ方を広げる。 (本時)	知 ↓	鑑 ↓	態鑑 ↓ 態鑑	知 [共通事項] の内容について理解できているかを見取り、できていない生徒に対しては、形や色彩に着目させるなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート】 鑑 態鑑 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えることなどができているかどうかなどと、取り組む態度とを見取り、できていない生徒に対しては、[共通事項] の視点を活用して作品を見つめさせたり、作者の心情について考えさせたりするなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート、活動の様子】 態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしているかどうかを評価する。【活動の様子、ワークシート】

<p><授業外：題材が終了後></p>	<p>知</p>	<p>鑑</p>	<p>知形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、作品のよさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかをワークシートから評価する。【ワークシート】</p> <p>鑑作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を広げているかどうかをワークシートから見取り評価する。【ワークシート】</p>
---------------------------	----------	----------	--

- **知**は、授業の中で評価規準を通して、生徒の学習の実現状況を見取り、生徒の学習の改善や、教師の指導の改善につなげるために用いる「題材の評価規準」を示す。
- **鑑**は、題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる「題材の評価規準」（授業内での評価を再確認するための評価も含む）を示す。ここでの評価が最終的に評定の総括にも用いられることになる。
- **知**は、授業の中で評価規準を通して、生徒の学習の実現状況を見取り、生徒の学習の改善や、教師の指導の改善につなげる留意点等について示している。
- **ゴシック体**は、題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる評価についての評価方法や留意点等について示している。
- **【 】**は、評価の方法や生徒の学習の実現状況を見取るための資料を示す。

本時の学習

1 準備物

- 安芸高田市所蔵作品 『もう一度の想い』 大上典男
- ワークシート

2 学習の展開 (本時 1 / 1 時)

分	学習活動	◇指導の工夫 ◆努力を要すると判断される生徒への支援	評価規準 (評価方法)
導入 15分	<p>1 活動のルールを確認する。</p> <p>2 作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の中に何が描かれているのか見付けたり，そこから感じたことを交流したりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青っぽい色が使われていて，全体的に不気味な印象がある。 ・ 暗いから夜かな。 ・ 子供は何となく寂しそう。 ・ 中央の子供に光が当たっている。 ・ 上にあるひものようなものをつかもうとしている。何をしようとしているのだろう。 </div>	<p>◇ 対話的な活動を中心に鑑賞を行うことを確認し，活動のルールを提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>① 静かにじっくり見る ② 作品から受ける印象を具体的に考える ③ 自分が感じたことを大切にする</p> </div> <p>◇ 生徒にとって初めての作品のため，描かれているものを見付けたり，自分の感覚で作品のイメージを広げたりするために，静かにじっくりと作品を見る時間を確保する。</p> <p>◇ 全体場で交流しやすくするために，ペアでの対話を取り入れる。</p> <p>◇ 生徒が様々な観点から作品を鑑賞できるように発問する。</p> <p>【発問例】 「何が描かれているのだろう。」 「この人たちは何をしているのだろう。」 「なぜ，作者は青色で描いたのだろう。」</p> <p>◇ 感じたことのみを話している生徒には，「どこからそう感じましたか？」と造形的な特徴を意識させ，その生徒が着目した部分を全体で共有する。</p>	
	<p>3 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>◇ 作者や作品名などを簡単に解説し，作者の心情や表現の意図と工夫などを考えるきっかけをつくる。</p>	
	<p>(学習課題) 作者がこの作品に込めた『想い』とは 何だろう？</p>		

<p>展開 20分</p>	<p>4 作品の細部までじっくりと見て、作者の心情や表現の意図と工夫などを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 造形的な視点を基に作者の心情や表現の意図と工夫などをグループで話し合い、クラス全体に発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全身が青い人は死んでいる人で、色のある人と犬は生きています。 子供たちが何かをつかもうとしているから、ここから逃げ出したいと思っている。 手だけが人間っぽい色になっていて、また生きたいと思っていそう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 造形的な視点（形、色彩、明暗など）を基に鑑賞するように促し、作者の心情や表現の意図と工夫を考えるように指導する。 ◇ ワークシートには作品を印刷し、気付きなどを書き込めるようにしておき、造形的な視点や、作品名などと関連付けて自分なりの根拠をもって考えることができるようにする。 ◇ 一人では気付かなかった新たな視点で作品を捉えられるようにするために、小グループで自身が感じたことや考えたことを他者に伝えたり、他者の考えを聞いたりする活動を行う。 ◆ 話し合いが進まないグループには、第一印象での発言から広がりそうな意見を取り上げ、その意見からグループの他の生徒の別の考えを引き出したり、作品を鑑賞する時間を再度設定したりして、作品の中に新たな気付きをもたせる。 	<p>鑑賞</p> <p>美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 (発言内容、ワークシート、活動の様子)</p>
<p>まとめ 15分</p>	<p>5 作者の関心や発想、作品に込められた心情、その作品によって何を表したかったのかについて、自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 造形的な視点をもって、自分の考えや他者の考えなどを踏まえて記述するように促す。 ◆ 文章を書くことが難しい生徒には、印象に残った言葉をキーワードで挙げさせる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈生徒のまとめの例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 作者が作品に込めた『想い』とは、「もう一度楽しかったころに戻りたい」だと思った。ここは子供部屋で、部屋の明かりをつけようと手を伸ばしている。子供が自分で人生を明るいものにしようとしていると思った。また、暗い青が夜で、子供の寂しさや心の暗さを表していると思った。 作者が作品に込めた『想い』とは、「もう一度生きたい」だと思った。上からぶら下がっている紙が、あの世とこの世をつなぐ切符のようなもので、切符をつかむともう一度生き返ることができる世界を表していると考えた。 </div>			
	<p>6 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 5でまとめた自分の考えを数人発表させる。着目した形や色彩が同じでも、作者の関心や発想、作品に込められた心情、その作品によって何を表したかったのかについて考えたことが違っていることや、作者の心情について考えたことは似ていても、着目した形や色が違うことなどを押さえ、見方や感じ方の広がりを感じさせる。 	